

「高松版生涯活躍のまち構想」に関する取り組みの成果 ～仏生山地区における「生涯活躍のまちづくりワークショップ」を事例に～

神田 亮
大村 隆史

はじめに

I. 「高松版生涯活躍のまち構想」の取り組み状況

II. 仏生山地区「生涯活躍のまちづくりワークショップ」の成果

おわりに

はじめに

本稿では、高松市市民政策局が検討を進めている「高松版生涯活躍のまち構想」に資する取り組みとして、仏生山コミュニティセンターで行われた「生涯活躍のまちづくりワークショップ」に注目し、その成果と課題について整理し、検討を行うことを目的としている。

そもそも「生涯活躍のまち構想」とは、中高年齢者が希望に応じて地方やまちなかに移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指すまちづくり計画のことで、まち・ひと・しごと創生本部の施策の一つとして位置づけられている¹⁾。

高松市においても、「高松版生涯活躍のまち構想」が策定され、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きられるよう、地域包括ケアシステムの構築に取り組みつつ、介護や育児などの複合的な問題を抱えた世帯を包括的に支援する地域共生社会の実現が目指されている。また、人口減少の抑制に向けたコミュニティ単位の取り組みなども行われており、地域の個性を活かしたまちづくりが進められているとされる。

こうしたなか取り組まれている「生涯活躍のまちづくりワークショップ」は、香川大学地域連携・生涯学習センターの教員がファシリテーターを担い、地域の社会教育関係団体の代表者、高松市市民政策局の担当者などが参加しており、生活に身近なコミュニティセンターを会場に、主に仏生山地区や男木島地区などで実施されている。ワークショップが「生涯活躍のまち構想」の実現に対してどのような意義を持っているのかについては、必ずしも明確になっておらず、これまでの成果を整理することで、その意義を明確にする手立てとすることができると考えられる。

以下では、「高松版生涯活躍のまち構想」の実質化を目指して、「生涯活躍のまちづくりワークショップ」の成果と課題を整理し、地域と行政と大学とが連携・協働して作り出した対話の場が果たす機能と可能性について検討をしていく。

I. 「高松版生涯活躍のまち構想」の取り組み状況

2017（平成29）年度に、高松市政策課移住・定住促進室長をリーダーとする総勢12名で組織された「高松版生涯活躍のまち構想」検討プロジェクトチームが発足した。プロジェクトチームの会議では「高松版

生涯活躍のまち構想」の方向性が話し合われ、2018（平成30）年3月までに基本構想や基本計画（仮称）骨子の概要、今後の進め方が検討された。

2018（平成30）年度は、基本計画（仮称）の骨子案が議論され、同年9月には高松市民・首都圏在住者・地域コミュニティ協議会を対象とした意識調査の実施、同年11月には高松版生涯活躍のまちに関するアン

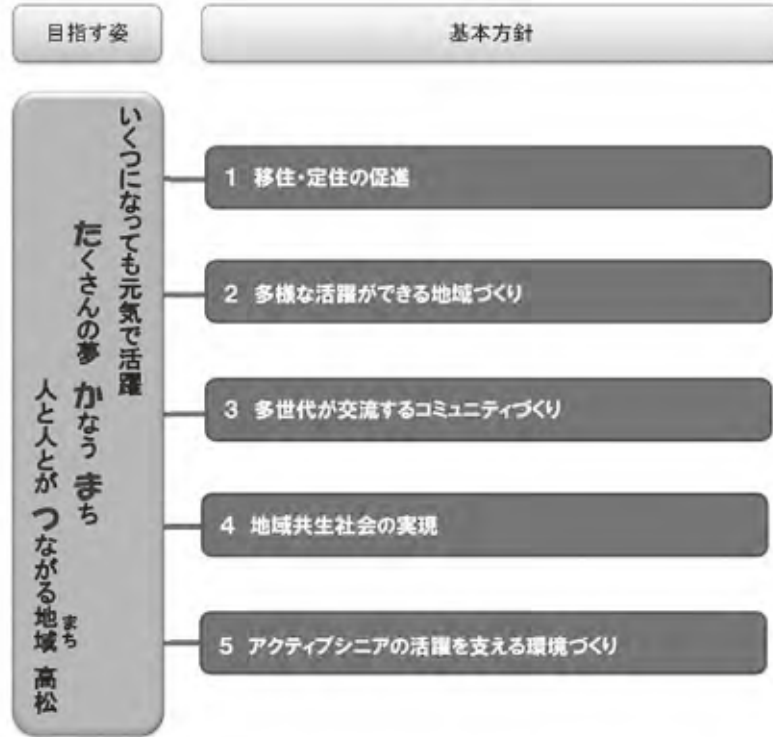


図2 「高松版生涯活躍のまち構想」基本方針

<p>基本方針1. 移住・定住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移住・定住促進事業 ○生涯活躍のまちづくり推進事業（啓発、人材育成） ○地域おこし協力隊活動事業 	<p>基本方針4. 地域共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活支援・介護予防サービス提供体制構築事業 ○介護予防推進事業 ○瓦町健康ステーション事業 ○高齢者居場所づくり事業 ○高齢者と地域の交流事業 ○地域保健推進事業 ○健康づくり推進事業 ○高松型地域共生社会構築事業
<p>基本方針2. 多様な活躍ができる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シルバー人材センター運営補助事業 ○老人クラブ活動助成事業 ○高齢者就労支援事業 ○地域食育推進事業 ○総合的な学習の時間活性化推進事業 ○高齢者教育推進事業 ○コミュニティセンター講座事業 ○生涯学習推進事業 ○中小企業指導団体等育成事業 	<p>基本方針5. アクティブシニアの活躍を支える環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業 ○地域公共交通再編事業 ○公共交通利用促進事業
<p>基本方針3. 多世代が交流するコミュニティづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもを中心にした地域交流事業 ○コミュニティ推進事業 ○自治会活動推進事業 ○地域まちづくり交付金事業 	

図3 「高松版生涯活躍のまち構想」基本方針における主な取り組み

ケート調査に伴う市民との意見交換会を実施している。同年12月からは「高松版生涯活躍のまち構想（仮称）」策定に係るアドバイザー会議を実施している。この会議のアドバイザーには社会福祉協議会、コミュニティ協議会連合会、香川労働局などとも並んで香川大学地域連携・生涯学習センターも加わっており、図2で示す基本方針の策定に携わった。基本方針の主な取組は図3のとおりである。

2018年11月実施「高松版生涯活躍のまちに関するアンケート調査」の結果⁴⁾では、シニア世代も仕事をしたいというまとめがなされており、その理由には経済的必要性に加えて、健康的な暮らしや生きがいのためという理由が挙げられている。一方で、シニア世代になるにあたって不安に思うことには、自身の健康に次いで家庭の収支が挙げられている。しかし、シニア世代になってほしいこととしては、趣味に注力する、あるいは短時間就労への関心が高い。これらのことから、「シニア世代」の生活に関して、経済的な不安を感じながらも余暇としての生き方や、収入は一定程度でも自由な時間を優先するような生き方への志向性があるように思われる。

「シニア世代」という言葉をめぐって、現実と理想との間にギャップを抱える地域住民の現状に対して、「生涯活躍のまちづくりワークショップ」という対話の場は、どのような成果を残すことができたのだろうか。以下では、仏生山地区における「生涯活躍のまちづくりワークショップ」に注目し、その成果と課題について整理していく。

Ⅱ. 仏生山地区「生涯活躍のまちづくりワークショップ」の成果

(1) 仏生山地区の概要

仏生山地区は高松市中部地域の最も南に位置し、初代高松藩主松平頼重が菩提寺として法然寺を建てたことから門前町として繁栄し、戦後は高松市のベッドタウンとして人口が増加した。人口は2020年3月現在9,097人²⁾であり仏生山地区が含まれる龍雲中学校圏域の高齢化率³⁾は23.1%であり、高松市全体の高齢化率26.9%と比較すると低く、近年再開発が施され高齢化率が減少している圏域でもある。教育施設は、仏生山小学校が配置されており児童数は約530人で近年増加している。このように古くからの街並みを残しつつ、再開発による人口流入で高齢化率が減少している仏生山地区にある仏生山コミュニティセンターで「生涯活躍のまちづくりワークショップ」（以下ワークショップ）が開催された。

(2) ワークショップの概要

ワークショップは、2019年度を通じて全体で3回実施された。ワークショップは、高松市市民政策局政策課が主体となり、香川大学地域連携・生涯学習センターの教員がファシリテーターを担い、地域の社会教育関係団体の代表者等が参加し、各回ともに約20名の参加者で実施された。以下、各回の成果を簡潔にまとめていく。なお、当初は4回目の実施が予定されていたが、新型コロナウイルスによる影響を考慮し延期となったことを併記しておく。

第1回 日時：令和元年8月28日（水）19：00～21：00

場所：仏生山コミュニティセンター

第1回は、2つのワークで構成された。ワーク①では、生涯活躍のまちづくりをしていくうえで「こんなアクティブシニアがいらっしゃれば」をテーマにグループで話し合い、「NPOを経営する上でのアドバイザーがいてくれたらよい」、「地域に入っていくやすい環境作りをしてくれる人がいたらよい」などの意見がグループから発表された。ファシリテーターは、「企画のできる人（新しい発想、アイデアのある方）」

がいてくれたらよい」、「子どもの体験を豊かにしてくれる人（特技のある人、楽しい人、子どもの扱いが上手な人）がいてくれたらよい」などの意見をピックアップした。

ワーク②では、「どんな人材・人財を呼び込めるか」をテーマにグループで話し合い、「仏生山全戸にアンケートを配布し、ニーズを把握したうえで仏生山人材バンクをつくる」、「誰でもできる仏生山ブランディング～手軽な農業～」などの意見が出た。「誰でもできる仏生山ブランディング～手軽な農業～」の具体的な内容として、金柑の木をコミュニティで育成し販売する事例などが紹介された。ファシリテーターは、「都市部の人を呼び込む仕掛けとして、ホームステイを実施して生の感想を情報発信する」、「コミュニティセンターに『こんなことできる！』ホワイトボードを設置する」などの意見をピックアップした。

第2回 日時：令和元年11月25日（月）19：00～21：00

場所：仏生山コミュニティセンター

第2回目では、「どうすれば、人材・人財を呼び込めるか」をテーマに、1. 「しがらみ」は“鬱陶しい？”人はどのように煩わしさを感じるのか、2. 「しがらみ」は見方を変えれば「ネットワーク」、3. 仏生山は「開かれた地域という印象があるが、それはなぜ？」、4. 「えっ、この人が？」という、意外な参加事例はあるか、5. 「しがらみ」を楽しむ、「しがらみ」の受け止め方を変える、この新しい「価値観」について、改めて要素を検討してみましょうという5つの問いかけによって会が進行された。

それぞれの問いかけに対して多くの意見が抽出され、人間関係に関する組織の立場としての意見や、人材不足のためメンバーが変わらないことに関する意見、価値観の相違などの意見が多くみられた。それぞれの問いを通じて出た意見をまとめると、「多様な価値観や生活感を持った人がいる町ではあるが、絆やつなかりを大切に『ありがとう』が交わる場所を創出したい」との意見であった。

第3回 日時：令和2年1月20日（月）19：00～21：00

場所：仏生山コミュニティセンター

第3回目では、これまでの2回のワークショップを振り返りつつ「みんなで“種”を見つけましょう」をテーマに各グループで話し合いをした。ファシリテーターからは、“種”を見つけるうえで「育て甲斐のある」、「比較的取り組みやすい」、「巻き込めそう」、「みんなで遊べる」、「きっと楽しい」という視点が提示され、中でも「きっと楽しい」を意識して「苦しいことをする」のはやめるよう助言があった。その後は、各グループから出てきた意見を「実現可能性」や「楽しさ」、「やりがい」等を軸としたマップの上に配置し、全体でイチオシの“種”について議論した。

イチオシの“種”として挙げられたのは以下の5つである。

- ・青空食堂—2～3か月に1回程度、最初は参加者が食材を持ち寄り開催。集まった時に次の開催概要を話し合う。
- ・ナイトウォーカー—夜間にお店を巡ったり、門前町屋のイベントに参加したり、法然寺のライトアップを見るなどの行程を体験することで、夜の仏生山の魅力を再発見できる。また、店の夜間営業の促進にもなる。
- ・農業にみんなで気軽に参加—各家庭で作れそうなもの（とうがらし、きんかん、レモン、はっさく）。最終的には販売まで持っていければよい。子ども達にも手伝ってもらおう。
- ・子どもに教えられる先生、木工、昔遊び—学校で習う科目ではなく、木工や昔遊びを通じて子どもたち

と関わりが持てると良い。

- ・夜間中学—専門分野の先生に来ていただき大人を対象とした学び直し。

以上の5つの“種”が挙げられ、この回ではひとつに絞ることができなかったが個性豊かな“種”が提案された。

(3) まとめ

ワークショップの参加者は、普段生活している土地であるからこそ実感できなかった仏生山地区の価値や魅力をワークショップにより再発見し、それらを“種”として取り上げ実現へ向けて議論を進めている。それには第三者として参画したファシリテーターの存在が大きく影響している。コミュニティセンターという町の拠点となる場所で、地元住民だけで同様の議論をしたとしても、意見の広がりや深まりは見込めなかったのではないかと推察される。ファシリテーターが参画することで、普段生活している土地について様々な視点で議論ができ、その他の土地における事例なども学習することで仏生山地区の価値や魅力を再発見するきっかけづくりとなった。

なお、第3回のワークショップでは“種”をひとつに絞ることができずに第4回のワークショップへの宿題となった。第4回のワークショップは令和2年2月末に実施予定であったが、前述の理由により延期となってしまったため、本稿では“種”をどのように整理するかまで議論できなかった。“種”を“実”へと繋げられるよう引き続き関わりを続けていきたい。

おわりに

これまで、高松市市民政策局が検討を進めている「高松版生涯活躍のまち構想」に資する取り組みとして、仏生山コミュニティセンターで行われた「生涯活躍のまちづくりワークショップ」に注目し、その成果について整理してきた。

成果につながるポイントとして注目されたのは、大学教員という第三者ファシリテーターの参画があったことである。これによって、住民同士の意見の広がりや深まりが見られ、「高松版生涯活躍のまち構想」の実質化に向けた対話の場づくりに貢献する大学としての役割を見出すことができた。

参考文献

- 1) 内閣官房・内閣府 総合サイト. “まち・ひと・しごと創生本部”. 生涯活躍のまち (日本版CCRC). <https://www.kantei.go.jp/singi/sousei/about/ccrc/index.html>, (参照2020-02-28)
- 2) 高松市情報政策課. “【統計】登録人口(住民基本台帳人口)”. 第2表 町別・男女別人口. <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/tokei/jinko/toroku/r02/r020301.html>, (参照2020-03-04)
- 3) 高松市. 第7期高松市高齢者保健福祉計画. 2018
- 4) 高松市. 高松版生涯活躍のまち構想～瀬戸の都・高松 アクティブライフ プラン～. 2019-03.